

かほく市立高松中学校 学校便り

《校訓》「責任を果たせ 自主・協同・奉仕」

さわやか

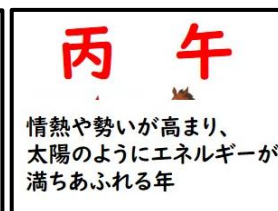


第9号 令和8年1月7日発行
校長 塚田 秀和

□ 令和8年を迎えて、丙午(ひのえうま)に思う

あけましておめでとうございます。本年も昨年以上に教職員一同、一丸となり頑張っていきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。年が明けるとどうしても能登半島地震を思い出しますが、無事に年が明け、穏やかに3学期がスタートできることが何より嬉しく思っています。

さて、1月の始業式での話です。干支とは10年で一周する「十干(じっかん)」と12年で一周する「十二支」の組み合わせで、今年は十干で言えば「丙(ひのえ)」、十二支で言えば「午(うま)」、合わせて干支は「丙午(ひのえうま)」ということになります。「丙」とは、「火」を意味し生命力にあふれる状態を、「午」は、馬が持つイメージのように、スピード、勢いや力強さを意味します。そのため、「丙午」の今年は、情熱や勢いが高まり、太陽のようにエネルギーが満ちあふれる年になると言われます。この高松中学校も、エネルギーに満ちあふれる1年になることを願っています。



これまで、丙午の年は出生数が少ないということがありました。前回の丙午(60年前:1966年)の出生数は136万人でした。翌1967年の出生数は193万5千人と差は57万5千人ありました。ご存じの通り、出生数は年々減っており2024年の出生数は68万6千人でした。そう考えると1年間で57万5千人の減少はすごい数字です。



私は丙午の翌年1967年生まれです。私が中学校のとき6クラスの学年でしたが、上の学年は5クラスでした。高松中学校の1966年生まれ、1967年生まれの卒業生数を調べたところ1966年生まれの学年は176人で4クラス、1967年生まれば224人で5クラス、卒業生数は48人の差がありました。出生数が少ないのは、どうも全国的な傾向のようです。

出生数が少ないのは「丙午生まれの女性は、気性が激しく、夫の命を縮める」という迷信が理由だそうです。何でも信じてしまうと不安になったり、間違った行動をしてしまったりすることがあります。情報に惑わされないためには、「なぜ、そうなのか」という理由や根拠、情報源の信頼性を確認するなど、一度立ち止まって考えることが大切です。特に、SNSでは根拠のない情報が素早く広がるため注意が必要です。

「丙午」の新年を迎えて、60年前の丙午にはなかったSNS、情報への向き合い方について、改めて考えさせられることになりました。

始業式では、続けて3学期のテーマについて話をしました。3学期は言うまでもなく、一番短い学期です。学校へ登校する日が、3年生は45日、1・2年生は51日です。3年生は進路の決定と卒業、1・2年生は「学年のまとめ」「次の学年への準備」といった、短いけれど、大切な学期です。3月には誰もが「このクラスでよかった」「この学年でよかった」というゴールの姿をイメージして過ごしていきましょう。そのため、何度か登場しているテーマですが、**3学期のテーマは「高中ABCDの法則」**と伝えました。

「高中ABCDの法則」

A:あたりまえのことを
B:ばかにせず
C:ちゃんとやれる人こそ
D:できる高中生

□ 令和7年度 卒業証書授与式のお知らせ

令和7年度卒業証書授与式を **令和8年3月13日(金) 9:30**より、本校体育館で挙行政致します。詳細については、2月上旬に案内を送付します。